

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開所当時に作成したものであるが、変更について職員間で話し合ったがこのままでよいという結論になっている。ご利用者が住みなれた地域の中で喜怒哀楽を表しながら家庭のように気がねなく生活できる場をめざし理念を構築している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼の最後に理念を皆で唱和し、皆が周知すると共に理念に基づいたケアがその日1日のかかわりの中で行えるようにしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は入居時にご家族に説明すると共に、ホームに出入りする地域の人々に目に付きやすい場所に掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気候の良いときにはホーム周辺を散歩したり、しあわせ広場で活動することでご近所の方とあいさつを交わすことはある。	<input checked="" type="radio"/> ホーム敷地外の散歩を増やし、地域の方ともっと話ができる場面を持ったり、ホームで作った手作りのおやつを届けるなど交流を持っていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入していない。地域の方には菊を持ってきていただいたり、地域の祭りや文化祭、小学校の七夕祭りに参加し、地域の方のかかわりを持っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご利用者がお手伝いできること(畑仕事や園芸など)があればさせていただきたいと運営推進会議で地域の代表者に呼びかけているが、今のところ活動はない。お手玉をつくり、保育所や幼稚園に寄付したいと少しずつ作成している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価によって、ホームの現状を見直し、良い点は継続し、改善点は話し合い、よい方策を見出す機会となっている。評価は朝のカンファレンスで皆で行い、取り組むたい内容は全体会議で共有し、実践につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、自己・外部評価の結果報告を行い、改善点への具体案について相談を行ったり、取り組み状況について報告している。また、会議内容は会議録として全職員が閲覧し、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	みよし広域連合の担当者と連絡を取り合っており、運営上の問題点等相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護と後見人制度についての勉強会を行った。ホームでは1名の方が地域福祉権利擁護を利用し、その他ご質問をいただいたご家族に情報提供を行い、相談援助を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての勉強会を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の時には、重要事項説明書、権利・義務について、契約書にもとづき、ゆっくり丁寧に説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見、不満、苦情は常日頃職員や管理者に話して下さるが、そのなかでも定期的にはご利用者が今の生活に満足があるか否か直接聞くようにしている。外部者には、運営推進会議の日には、会の前に参加員と話す時間が自然とあり、本心を聞くことのできるいい時間になっている。また、そのご意見は改善に取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態は、面会時や電話で話すと共に、毎月『ひと月のご様子』という手紙を送っている。金銭管理は、お預かり金がある場合は出納帳に収支を記載し、ご家族面会時に確認していただいて署名をいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口を掲載し、いつでも気軽にご意見をいただけるように説明を行っている。また、年2回家族会を開催し、要望やご意見をいただく場を設け、いただいた意見は検討し、改善すべき点は早急に行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を月1回設けて、職員の意見を交換する場になっているが、職員は会議以外にも日常的に管理者に意向を伝えることが多い。その件について、全体会議で話し合い、改善を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の状況によっては、時間配置に変化が生じる。ユニット間でも、勤務時間に30分の時間差があるが、今後も必要に応じては勤務時間帯の調整を行いたい。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間で1名ずつホームの質の向上のため職員交替を行った。その際には、ご利用者や担当ご利用者のご家族にその旨を伝えた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力や職種に合わせてホーム外研修の参加を行っている。ホーム内研修は入職後1ヶ月以内に行い、実際の勤務に一人で行えるまでには能力に応じて十分な期間が取れるよう配慮している。月1回、勉強会を開催して全員参加できるよう調整している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの交流について、他の単独型グループホームにご利用者と職員が訪問したいと依頼しているが今の段階ではできていない。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩がしっかり取れるように取り組んだ。また、勤務形態の平等化に配慮し、勤務票を作成する、連休を平等に取り入れる、休暇が希望どおりに取得できるよう配慮している。また、知識不足が介護をする上で大きなストレスを抱える一因と考え、職員の勉強会を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の能力に応じて仕事に取り組めるように、研修等や学習療法員を選定している。また、勤務状況を把握し、昇給や皆勤手当での支給を行った。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	昨年度は利用者がいなかったが、入居時にはご自宅や入院されている病院等を訪問した際に1対1の状況を作ったいただき、ゆっくりと時間をかけて何うように努めている。また日中のみの利用や体験入所の際に、話を何うようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	なかなか本心を何う事が困難であるが、こちらから訪問したりホームに来ていただいたりしている。また担当のケアマネを通して情報を得ることもしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在ホームでは他のサービスを提供できる体制が整っていない為、相談内容から他施設の紹介やその他のサービスについての情報提供は行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所や日中のみの利用にてホームに馴染んでいただけるよう工夫をしている。ご家族には送迎時に日中のご様子の手紙をお渡ししたり、電話にてお伝えして、これに対しての要望や情報を得る等している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農作業は利用者が一番生き生きとされる時で、苗の植え方等の指導をしていただく。玉葱の収穫では、入居者様が束ね職員が吊るす等役割を分担し一緒に行った。また、だんごや餅を作る際には昔ながらの方法やそのいわれを教えていただいている。普段の会話の中からも教えていただく事はたくさんあり、感謝の言葉を忘れないようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には最近のご様子をお伝えしている。この時その方のできる事を発見した喜びをご家族にお話すると、さらにご家族よりできそうな事の情報をお伝えすることもあり、一緒に喜んだり、驚いたりしている。またご家族による通院もお願いしている為、ご本人の状態を知っていただく良い機会となっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係は良いが、面会時に「連れて帰って」と詰め寄られる時があり、そのような事があった後には面会が遠くご家族がある。親戚の方と一緒に来られる等ご家族も考えて下さっているが、別れる時の支援方法が難しい。職員との会話の中でご家族の話題が出た時は、それを面会時にお伝えしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはゆっくりと話をさせていただけるように努めている。また馴染みの場所へは催し物・お祭り等をチェックしておき、これらに参加をしていただいた。思いがけず馴染みの方との出会いがあり、会話が弾み、楽しい一日を過ごされた。	○	地域へでる機会をもっと増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の時間は最後の方が席に着くまで待って下さり、お茶の時間には全員が集まって会話を楽しまれる。トイレのわからない方を誘導して下さったり、洗濯物を届けて下さったり。また互いに居室を訪問され会話をされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	対象となる方がいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に伺ったり、日頃の会話や態度より感じ取っている。また職員には本心を訴えられない方がおられ、ご家族より要望等をお聞きする事もあるので、面会時や外泊より戻られた時等には、お話を伺うようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントシートにより伺っているが、初回にはなかなか踏み込んだ話を伺えない時もある。その為、その後の面会時等に少しずつ伺うように努めている。	○	いつでも気づいた事はアセスメントシートに記入する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご自分でできることへの配慮を忘れず、その人本位で生活が送れるよう支援している。また様々な活動に参加をして頂く機会を作り、その方の新たな一面(こんな事ができるんだ)を発見した時にはケア目標に取り入れ、その能力が継続できるよう支援している。	○	認知症の進行している方に対しては過介護になっている。もう少しできる事を見守れるような体制を整えたい。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行っているが、ご家族にはなかなか参加をしていただく機会がない。その為面会時や家族会等でゆっくりとお話を伺ったり、遠方の方には電話で連絡を取っている。また主治医にも受診時に意見を伺い、看護師・スタッフ間で話し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン表の作成には至らずとも、主治医やご家族、看護師、スタッフ間で話し合い、状態に合わせた計画を立てている。そして変更の理由等を書き添え、連絡事項の欄や介護記録に記入している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランよりケア目標を立てており、介護記録にはそれが実施できたかどうか、またその時の様子や言葉を残すことで翌日の支援者の参考となっている。月末にはケア評価を行い、ケアプラン作成時に活かされている。	○	記録を書く力に差があるので、勉強の機会を持ちたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊の送迎、入院中のご家族のお見舞いの援助等、柔軟な対応を行っている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの喫茶店で誕生日のお祝いをしたり、美容院を訪れたりして、地域の方と触れ合う機会を持っている。秋にはそれぞれの地域の文化祭等に問い合わせをして、参加をした。その他ホームでの行事には演芸ボランティアの方の訪問がある。	○	民生委員や警察・消防等との協力体制はできていない。今後行方不明になった時のシステムづくりが必要と思われる。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する必要性はなかった。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在権利擁護等、利用している方がおられず、運営推進会議で意見をいただく程度に留まっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診をしており、馴染みの関係を継続している。三好市以外の遠方へはご家族にお願いをしているが、変更の要望があった時には、その都度対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	基本的にはかかりつけ医により治療を行っている。認知症の進行により更なる治療が必要となった場合には、三好市内に専門病院がない為、近くの精神病院の医師に相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護師には、小さな事でもその都度相談をしている。	○	今後は訪問看護サービスの利用も必要となってくるので、地域の事業所に働きかけたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	まだ該当者はいないが、かかりつけ医とは受診の度相談をする等、日頃より連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できていない。	○	今ほどの段階で話し合うとよいのか、タイミングが難しい。スタッフ間でよく話し合いたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できていない。	○	「できること・できないこと」を明確化して、体制づくりに取り組みたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際にはアセスメントシートを用いて、ご家族より話を伺う。また主治医や担当のケアマネより情報を得る。環境に慣れて頂くために日中のみの短時間からホームを利用して頂き、少しずつ時間を長くしていく方法をとっている。	○	ダメージを防ぐために入居時には必ずサマリーをいただく(情報を少しでも多く得る)。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴の声かけは耳元で行うよう心がけてはいるが、実際には大きな声で話しをしてしまう時がある。個人情報について、記録は普段ロッカーにしまっており、電話での問い合わせにもご家族の要望を取り入れている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ほとんどの方がご自分で意思を伝えることはできるが、会話の中で好きな事やしたい事を尋ねたりする。また二者択一のような質問をして言葉を引き出す工夫をしているが、それでも困難な方には表情や態度より推測して、最終的にはご本人に決めていただけるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居間で過ごす人、自室で過ごす人、それぞれに過ごされている。「今日仕事ないんで？」と尋ねて来られる方には、家事をしていただいたり、畑仕事をお願いしたりする。何事も無理強いせず、ご本人の希望に応じるように努めてはいるが、半ば強制的に参加をしていただくと、思いがけず良い結果が得られる時もある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の行きつけの美容院へ行ったり、ご近所の美容院へ出掛けたりしている。何回か行くと顔なじみになり、カット中の会話も弾んでいる。中にはご家族が連れて行って下さる所もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から「手伝おうか」と調理場へ来て下さる。一緒に作り同じテーブルで「これ〇〇さんが味付けしてくれたんですよ」と会話をしながらいただいている。片付けも担当が決まっているが、テーブル拭き等の簡単な作業には男性利用者も参加して下さる。みんなで「いただきます」を言うことで互いを思いやり家族のように過ごされている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間には好みの飲み物を出している。おやつも職員による手作りの物や「いのこ菓子」や「おちらし」等、懐かしいお菓子を出して子供の頃を思い出していただいている。利用前から煙草を吸われている方がおられるが、ホームは基本的に禁煙なので、吸う場所・時間をご本人と相談して決めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙パンツや尿取りパットを使用されている方がおられるが、それらに頼らないよう排泄チェック表にてその方の排泄パターンをつかみ、声かけを行っている。また失禁がある方でもパット等の使用を拒む方には無理強いせず、状況をみながら声かけを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は行事等がない限りほとんどの日が午後からの実施である。入浴を拒否される方には早めの声かけや時間の変更等しているが、無理強いはいしない。翌日その方を優先して声かけを行う。また要望があった時には実施している。通院や外出の前には入浴の声かけを行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	こたつやソファのお好きな所で過ごされ、自室で過ごされる方もおられる。これらの所でウトウトと居眠りをされる方もおられる。利用者の生活習慣によりベッドや畳を使い分けているが、畳で休んでいた方の咳が止まらずベッドに変更してみたところその後きれいに咳が止まった。就寝時間はお好きな時間である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業や家事を行う時は、その方の力量によって役割を持っていただいているが、全く経験のない方にも声をかけチャレンジをさせていただくと、意外と手際が良かったり、お好きだったり新しい発見がある。そして作業中は感謝の言葉を忘れないようにしている。また買い物に出掛けたり、散歩をしたりして気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度の金銭をお持ちの方のご家族にはご理解いただいているが、職員間では紛失を恐れているので、なるべくなら手持ちの金銭がないようお願いしているのが現状。ホームで預かり金をして外出の都度お渡しし、買い物をされた時にはご自分で支払いをしていただいている方もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良いと外に出たいとの要望があり、庭を散歩したり広場で過ごしたりする。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生月に行きたい所を尋ね、その月の誕生者で外出を行った。1・2階の利用者が一緒に出掛ける事もあり、交流も図れ良かったと思う。また去年は地域の文化祭に参加して、馴染みのある風景を楽しんでいただいたり、なかなか機会がない人形浄瑠璃も見ることができた。	○	もっと、行きたい所・懐かしい場所に出掛けられるよう支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けるのは困難な方が多く、希望があった時には職員が掛けた後代わって話をされる。また今年は昨年より多くの方が年賀状を書かれた。	○	月の便りに一行でも言葉を添えていただけたら良いかと考えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも可能な状態で、和室を使っていただいたり、居室で話をしていただいている。室温や座席の数等に気をつけ、ゆっくりと過ごせていただけるようにお茶をお出ししている。面会等はよく来ていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等で勉強会を行ったり、身体拘束倫理規定を回覧する等周知徹底に取り組んでいる。	○	繰り返し勉強会を行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階は今まで危険を回避する為、階段と居間との間の扉に鍵をしてきたが、利用者の立場に立って考え開錠することにした。玄関はいつもお好きな時に出入り自由で、居室に関しては、利用者が必要時に施錠されている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食事やお茶の時間には全員が揃うので、この時に状態確認を行っている。居室で過ごす時間が長い時には、間で様子伺いに訪室して声かけを行う。夜間は2時間毎の巡視で状態把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	月に1回危険物チェックを行い、ライター等危険な物をお持ちの時は了解を得て預かっている。刃物関係も職員が保管しているが、必要時には使っていただいている。認知症の重度の方が他室に入室する事があるので、一人ひとりの状態に合わせては十分できていないと思う。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを繰り返し必読している。また全体会議で自らが再発予防案を考えて提出した「気づき報告書」を読み上げ、更に意見を出し合う。ふた月に1回避難訓練を行い、消防署の立会いの下、実施する機会も持っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを必読して、わからない事は看護師に意見を求めている。特に夜間は1名(各階1名)のスタッフで対応をしなければならないので、そのような事が起こった時の対応や連絡方法は確認をとっているが、定期的な訓練は行っていない。	○	今後訓練の機会を持つ。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は昼及び夜間を設定して行っている。日頃より近隣者には協力が得られるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	鍵を掛けない事で起こり得るリスクについてご家族に説明をし、理解を得ている。気づいた事があれば連絡を入れ、対応策や要望等をお聞きしている。密に連絡を取り合う事で信頼を得られるよう努めている。	○	今後も起こり得るリスクについて気づいた事があればご家族に説明をして、きちんと記録に残しておく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	目で見て、触れてみて、バイタルチェックを行う。そして速やかに職員間で確認、看護師に連絡を入れる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は1日3回間違いのないよう行っている。副作用については理解が十分とは言えないが、ただ服薬介助を行うだけでなく、食欲がなくなったり不安定になられたり等、その方の状態の変化をつかみ、症状を看護師に報告している。また受診時に医師に相談をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	影響を理解し、水分チェック表で水分量の少ない方には声をかけたり、回数を増やしたり、好みの飲み物を提供している。午前午後と体操も行っているが、なかなか排便にはつながらず、カマグや下剤を服用している方もいる。	○	利用者に、便秘についての話をし、改善にむけた体操を行う。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後は歯磨きを行いポリデント(月・水・金)につける。朝・昼は自力で困難な方には支援を行っているが、その他の方はご本人におまかせしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ソフトにより栄養バランスの取れた食事は提供できている。食べられない物がある方には同じ栄養素の食品で代替して、バランスを崩さないようにしている。また主治医に相談をして、意見をいただいている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり、勉強会も行っている。洗面台には手洗いのポスターを貼り付けて注意を促している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染予防の為の注意事項を台所の目の届くところに貼っている。台所用品は食器乾燥機等を用いて、布巾もハイター消毒を行っている。食材の賞味期限に気をつけ、再冷凍も行わない等気をつけている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭に花を植えたり、時には等身大の人形を飾ったりしてやわらかい雰囲気を出している。洗濯物や布団干し等が生活感をかもしだしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花や利用者の写真・作品が飾られている。毎月壁面の飾りを変えたり、床の間の置物は季節毎に変えたりする等して季節感を出す工夫をしている。調理場からの匂いが生活感をだしており、窓からの風景が一番季節を感じていただけていると思う。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、ソファ等一人ひとりお好きな場所で過ごしていただいている。静かな場所を要求される方には食堂を利用していただいたりする。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は自宅からの延長でベッドの方、畳の方がいる。部屋には家族の写真や馴染みのものが飾られ、一人の時間も楽しめるようにテレビを設置されている方もおられる。ご主人の位牌を持って来られている方もおられ、毎日おまつりをされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬季は寒いのでなかなか窓が開けられないが、掃除の時間等には窓を開け換気を行っている。空調は嫌いな方もおられるので、その方の要望に応じて行っている。また乾燥予防の為、加湿器を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレ等それぞれの箇所に手すりを設置。1階への移動も階段とエレベーターの2種類がある。調理場もIHなので、炒め物等も安心して手伝っていただいている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の扉や照明を変えたり、居室には表札を掛けているが、間違っって入室する方もおられ、暖簾をかける等して区別している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候のよい日は庭に出たり、畑、広場に出掛ける。庭には洗濯物や布団を干したり、花を植える。広場にはテーブルと椅子があり、皆が集まってお茶を飲んだり、夏祭りを行ったりしている。畑へは苗付けや草取りをして生き生きと過ごされる。外出が苦手な方はベランダへ出て外の景色を眺められている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・居間と食堂の区別ができており、食事を落ち着いていただく事ができます。食事の準備も利用者と一緒にいき「ご飯できたよ」との声かけに皆さんが食堂に来られます。皆さまの「いただきます」で食事が始まり「ごちそうさま」で食事が終わる。大家族の食事はゆっくりと時間が流れています。
- ・利用者のこれまでの生活を継続します。以前からのかかりつけ医に通院、農作業をする、料理をする、毎朝ご先祖様にお供えをする・お経を読む、楽器の演奏をする等の環境を整え支援をします。生き生きとした表情を見られるその時が大切な時間です。
- ・庭や広場の活用。広場には花壇や桜・柿・無花果・梨等の木々があり、それらの花や実が季節を知らせてくれます。早い者勝ち?で果実を採っていただきます。また1階ユニットとの交流の場ともなっています。
- ・毎月の便りでご家族とコミュニケーションを図っています。写真を同封する事でお元気な姿をお知らせする事ができ、ご家族にも喜んでいただいています。